



九条の樹

96号
2022年8月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：TEL 042-473-9489 (鈴木)

http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

くらしと平和、 憲法9条をこわす 大軍拡はストップを！



あがらない賃金、年金の削減に加え、10月からは高齢者医療費窓口負担2倍化が強行されます。前例のない大軍拡は、私たちのくらしと平和を破壊します。

憲法改悪を許さない共同へ

大軍拡と9条改憲を許さないために、「戦争をしてはならない」と考えている多くのの人々と対話をすすみましょう。市内の立憲野党の皆さんや団体や労組、個人の皆さんと懇談会なども開き、9条改憲を許さない共同を広げましょう。憲法改悪を許さない全国署名を集めましょう。

岸田首相は7月14日の記者会見で、「NATOのGDP2%という数字も念頭に、わが国として5年かけて防衛力を抜本的に強化していく」と述べ、敵基地攻撃能力の整備を行う考えにも言及しました。これは憲法9条のもとでは許されることではありません。

(後年度負担) が5兆8642億円に膨らみ、これらを合わせれば、日本はすでに世界有数の軍事支出国家になっています。政府は今年12月までに、国家安全保障戦略、防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画の3文書を改訂し、年末に決定される来年度予算案に軍事費2倍化の第一歩としての具体的な金額を盛り込む予定です。

●毎週木曜日午後5時から6時、
●毎月9日「9の日宣伝」午後4時から5時、東久留米駅西口で、憲法宣伝署名行動を行っています。

世界有数の軍事支出国家
今年度の日本の軍事費は21年度補正予算を合わせると6兆1744億円になり、「NATO基準」で計算するとGDP比1・24%に達しています。高額兵器を「ローン払い」で購入しているため、膨大な「軍事ローン」

大軍拡は社会生活をこわす

GDP2%、11兆円以上になれば国家予算全体に深刻な影響を与え、社会保障費の削減や消費税の大増税とならざるを得ません。今でも、止まらない物価高、

ぜひご参加ください。

「戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会」事務局 松元忠篤

憲法9条は無力か？

— 布施祐仁さん（ジャーナリスト） 講演から —

（5月22日・戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会主催）



今、憲法9条が変えられてしまうかもしれないというピンチな状況にあります。どうしたら守っていけるか考えていきましょう。

ウクライナ戦争のシヨック

ロシアによるウクライナ侵攻があつてから憲法を変えた人たちが「9条なんかじゃ国は守れない」と軍備増強や

改憲に向けた動きが強まっています。これは日本だけではなくロシアに近いヨーロッパでは大激震が走っています。例えばドイツ、ポーランドなどは軍隊や国防費を増やす方針を出しました。中立だったフィンランド、スウェーデンがNATO加盟を表明しています。

世論にも影響が出ています。朝日の世論調査で「日本周辺の安全保障環境に不安を感じるか」という問いに「大いに感じる」が60%で、4年前は48%でした。「あまり感じない」[全く感じない]は2%でした。岸田政権が進めようとしている「反撃能力（敵基地攻撃能力）」について毎日新聞で賛成が66%、反対が22%です。ま

た政府が言う防衛費GDPの2%に引き上げですが55%が賛成、反対は33%です。防衛費は今は1%程度で6兆円で2倍は12兆円です。冷静に考えれば6兆のお金をどうするのか、福祉や教育など国民の生活面を削ることが考えられると思います。

このようにウクライナ戦争は日本国民の意識にも大きな影響を与えていると思います。

この侵略に対し国連では圧倒的多数でロシアを非難し戦争の即時停止を求める決議が採択されました。

国連総会の討議では小国の発言が印象的でした。マルタ共和国の発言。「国連の基盤は国家の主権と独立の原則にある。力が正しいのだという原則は決して受け入れられない」。シンガポールは「力は正義だ」という国際秩序は小国を危険にさらす」。私はこれらの多くの発言を聞いて改めて小さい国々にとって、どう自国の安

全を守るか、強大な軍事力は持てないわけです。国連あるいは国連憲章に基づくルールに自国の安全をゆだねているわけです。もしロシアの侵略を認めてしまえば、自国の安全も保障されないと、とらえています。

法の支配から力の支配へ前世紀に引き戻すかどうかの分かれ道にあるのだと思います。

第2次大戦と国連憲章

今回のロシアの侵略はかつての日本の行動と似ています。戦前日本はまず朝鮮半島に進出し植民地化しました。そこを足掛かりに中国東北部に日本の傀儡（かいらい）政権を作り、さらに東南アジアへも進出しました。朝鮮を併合するとき日本は何と云ったかと言っと「ロシアの南下を防ぐため」と言いました。その後「絶対国防圏」を勝手に決めて外国を占領し、欧米からアジアを解放すると言って進出まし

た。ロシアの言い方とそっくりです。

かつて日本、ドイツ、イタリアは第2次世界大戦を引き起こし、多くの犠牲者を出したのち敗北しました。その戦争の結果国連憲章が出来ました。再び世界大戦を起こしてはいけません。将来の世代を次の戦争から守るために国連憲章が作られ、侵略戦争が禁止されました。

日本は第2次大戦の原因となつた国として国連の他の国以上に侵略禁止の国連憲章を守る責任が大きいと思います。

日本が進むべき道は？

ところが今日本政府が向かう方向は国連憲章とは逆方向です。「力には力」「アメリカとの同盟を強めれば日本は安全だ」と言う方向です。「力には力」の方向の行きつく先は核兵器です。アメリカとの「核共有」これは安倍元総理が言いました。維新の

会もそうです。「核共有の検討」「敵基地攻撃」「憲法9条改正」「防衛費倍増」がセットで言われています。

敵基地攻撃能力とは

最近この中身が変わってきています。去年までは、ある国が日本に侵略を開始した。ミサイルを日本に打とうとしている段階でミサイル基地を攻撃するのは必要最小限の自衛だとの説明でしたが、安倍元首相は「敵基地だけではなく相手国の中枢を攻撃することを含めるべき」だと言っていました。基地に命令を出す司令部などです。全面戦争に至るような攻撃をできるようにしようということ。専守防衛からはるかに逸脱しています。憲法9条はこれを認めていませんから、これを実現するためにどうしても憲法改正をしたいわけです。国連憲章も加盟国への武力行使があったときの自衛権行

使を認めています。専守防衛は世界のルールです。

このルールを守らなかったのが今回のロシアですがアメリカも守っていません。中南米、中東で先制攻撃をして国連総会で非難決議を受けています。

今の日本は国連のルールを守らないアメリカについていると見えています。

敵基地攻撃能力と集団的自衛権が組み合わさると最悪です。日本がどこの国からも攻撃を受けていないにもかかわらず、アメリカがどこかの国と戦争をはじめたら自衛隊が出て行って相手の国の中枢を攻撃する。どうなりますか。日本は全面的に戦争参加ということになります。

岸田政権は先日閣議決定で集団的自衛権行使においても敵基地攻撃を認めた場合にはやりうると言っています。かつて言っていた日本が侵略を受けて日本にミサイルを打つ

てくるのを阻止するなんてものではない。日本が攻撃を受けていなくともアメリカが戦争をしている第3国に対して日本が攻撃することになります。

敵基地攻撃能力の保有というのはすでに始まっています。既成事実を作っておいて最後に法律化する。2020年12月菅政権時代の閣議決定は現在自衛隊が保有しているミサイルの能力向上と開発。どういうことかとやうと地対艦ミサイルを南西諸島に配備していますが来年石垣島にも配備を予定しています。中国の脅威と言って防衛と言っていますが、射程が150キロぐらいです。中国本土まで届きません。この射程を大幅に伸ばすことが閣議決定で決められています。900キロまでのばす予定で中国本土へ届きます。さらに1500キロ。同時に川崎重工が開発を進める新しい型は2000キロで北京を射程に入れていきます。

浜部好弘さんの

「東京大空襲体験記」 よひ



昭和17年4月18日の午後、早稲田中学校の中庭で休んでいた時、いきなり「ブスブス」という音がして焼夷弾が校庭に落ちてきた。砂を掛けたりして火事にならずに済んだが5年生の柳田君が肩から直撃を受け即死した。それが米軍の第一回目の東京空襲だった。

中学5年生だった私は親子3人が住む深川森下町から早稲田まで通っていた。翌年早稲田高等学院理科に入学、翌年には菊井町早稲田研究所に動員となっていた。この年の秋から空襲も激烈になり昼夜の別なく警報が出され、食料も乏しくなり空腹の日々が続いた。

3月9日の夜もゲートルを巻いたままいつでも逃げられる服装で寝た。北北西の風が強くなり夜だった。確か警報は十時半

ころ鳴ったと思う。二階から降りて床下の壕にもぐりこんだ。超低空の爆音が聴こえ、同時にバラバラという音、パツと外が明るくなった。思わず親子三人壕を出た。物干し台に三発焼夷弾が落ちて消しようがない、隣の家にも落ちている。荷物を背負って戸外に飛び出した。

外は昼のように明るく人々が荷物を背負って右往左往していた。低空で飛んでいるB29の飛行士の顔が赤い夜空の中に見えた。親子三人どこへ逃げようか、父は何か言いながら走り出し、すぐに見失ってしまった。

火は風を呼び風が火を呼ぶというすさまじい火事嵐。火の玉は道を走り川を渡り家を貫き人間を渦に巻き込んだ夜であった。母とともに燃えていない方へ、荷物も一切捨て走りまくっ

た。火の川の中に身をかがめ突き進んだ。瞬間投げ出され母は吹き飛ばされ私も吹き飛んだが目の前に人が入れるぐらいの穴が目に入り夢中ではいずりこんだ。防空壕で布団などがあつた。人はいかなかった。熱風で息が苦しかったが耐えた。布団が燃え出したのでみんな外へ放り投げると燃えて飛んで行った。母を探しに出たかったが外はゴーと燃え、とても出られなかった。

長い時間のあとゴーゴーと言う音もいつか止み、熱風もおさまって暖かい空気が変わってきた。下界が黄色っぽく壕の入り口に見えてきた。鎮火は夜明け早々だと思ふ。壕を出ると焼野原で二十体ぐらいの遺体が目に入る。母を探して遺体を見て回った。母はどこかで生きているかもと淡い希望をもつてうろついた。

(氷川台の方からの寄稿文です)

《平和を考える本》

『ダストビン・ベイビー』

(J・ウィルソン／作 借成社)

1400円＋税



主人公は14歳のイギリスの少女。ピザ屋のダストビン(大きなゴミ箱の容器)に捨てられていた。それが4月1日だったのでエイプリルと呼ばれるようになり、様々な里親を経て、今は独身のマリオンと暮らしている。

マリオンは、初めて自分から里親になりたいと言ってくれた女性だが、少女は何かにつけて「実の母親だったら、どうしてくれるのか」と考えてしまう。

自分が本当に欲しいものは何か。大切なことは何か。それを知りたくて旅に出る。旅の途中でたくさんの人々と出会い、少女の出した結論とは？

(高田桂子)